

『魂の考古学 —豆谷和之さん追悼論文編—』

刊行：2016年5月29日
体裁：B5版、本文542頁

頒価：3,000円



内容／論攷47編（執筆者49名）、豆谷さんの実測図17点（12遺跡）

申込：E-mail / yamato_yayoikai@yahoo.co.jp

FAX / 0743-66-3830（埋蔵文化財天理教調査団）

※共に氏名、送付先、電話番号、申込冊数を明記の上、池田保信 宛

送料：1冊=510円、1冊以上は宅配便

発行：豆谷和之さん追悼事業会（<http://www.yayoi.sakuraweb.com/>）

目 次

巻頭言	泉 拓良
魂は一体となって	森岡秀人

第Ⅰ部 土器の追求

新潟県糸魚川地域における縄文から弥生	山岸洋一	1
「凸帯文」と「遠賀川」の接続		
—奈良県観音寺本馬遺跡出土凸帯文土器の評価—	岡田憲一	11
凸帯文土器と遠賀川式土器—東部瀬戸内地域の資料をもとに—	中村 豊	23
「遠賀川式土器」出現—讃岐平野を例に—	柴田将幹	33
遠賀川上流域における遠賀川式土器の具体相	八木健一郎	43
弥生時代中期前半における筑後型甕の設定		
福岡県南部の土器製作技法からみた画期の再考	永見秀徳	53
後期タタキ甕の広がりについての素描	市村慎太郎	67
小型丸底土器の製作における型の使用	次山 淳	79
漢城期百済の土器組成	長友朋子	89

第Ⅱ部 モノと生業

大阪府亀井北遺跡出土の土偶脚部	大野 薫	103
鋸齒状骨器小考	田嶋正憲	113
川西根成柿遺跡の石器についての覚書	有本昭子・有本雅己	121
近畿地方・弥生前期における石包丁製作技法の再検討		
～流紋岩・安山岩～	櫻井拓馬	131
木製穂摘具の使用実験 使用による変化と耐性について	村田幸子	141
土器と雑穀栽培	佐藤由紀男	153
長野県御社宮司遺跡の生業復元試論	中沢道彦	163
コクゾウムシは何を食べたか	安藤広道	173

「稻株痕跡」再考	中尾智行・辻 康男	183
弥生時代水田研究のあゆみと課題	伊藤淳史	199
第Ⅲ部 唐古・鍵遺跡と集落研究		
弥生文化成立期の集落	出原恵三	211
「環濠」調査考—調査における限界性の認識をこえて—	山崎頼人	221
王者に挑む～外から見た唐古・鍵遺跡～	若林邦彦	237
『遠賀川文化』の構図—和歌山県徳蔵地区遺跡における 弥生時代前期堰の再評価とともに—	立岡和人	249
和歌山平野南部における土地利用と水田開発	大木 要	263
淀川下流域および難波砂州における弥生～古墳時代の集落動態	櫻田小百合	273
宍道湖南岸の集落遺跡—弥生時代中期から古墳時代中期—	中川 寧	283
福井県若狭の弥生時代研究史—若狭の弥生時代研究ノート—	赤澤徳明	293
乙訓地域の前期古墳と集落	山本 亮	305
弥生時代の山村・山林集落のあり方 —「見えない集落試論」(続)・兵庫県域東南部の事例から—	山崎敏昭	315
小田原市中里遺跡の大括り「畿内系土器」に関する初歩的考察 —20世紀末踏査の南関東の発掘現場と 豆谷君を思い出しつつの正報告書覚書—	森岡秀人	325
環壕機能の多様性について—弥生環壕集落のその後—	西川修一	341
第Ⅳ部 弥生の墓と観念の世界		
加美Y1号墓の再検討	藤井 整	353
東海地方西部における弥生時代墳丘墓の批判的再検討	石井智大	367
弥生時代前期墓葬の土器供献	川部浩司	381
墓壇内破碎土器供献の階層性	村田裕介	395
鳥形土製品を用いた葬送祭祀と鳥霊信仰	白石哲也	405
唐古・鍵遺跡における銅鐸模倣の諸相	吉田 広	411
唐古・鍵遺跡 第22・38次調査出土絵画土器の復元	増田 啓	421
想像される龍—弥生絵画の鱗付き横S字状図像—	桑原久男	427
第Ⅴ部 弥生以降の世界		
「纏向」異論—纏向古墳群の検討序説—	久住猛雄	441
魚を追う鳥—江田船山古墳出土大刀の天界図像—	塚田良道	453
伊勢神宮「御田種蒔下始」の考古学的検討～儀具としての農工具～	穂積裕昌	463
磐余の諸宮と磐余池—古代磐余をめぐる諸問題—	相原嘉之	473
奈良時代における施釉瓦の動向について	岡田雅彦	483
モモの祭祀と場所に関する試案 ～平安京右京六条三坊の水に関する遺構から～	西野浩二	493
東アジアからみた「秦益人刻書石」	吉松高敏	499
近世墓石の変遷	清水琢哉	511
魂の図面		522
豆谷 權君 育英募金協力者御芳名一覧		540
感謝のことば	豆谷典子	542